

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 あわら坂井グリーン農業普及拡大協議会
 都道府県 福井県
 対象地域 あわら市、坂井市
 対象品目 水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

| | | |
|-------------|----------------------------|-------------------------|
| 化学農薬の使用量の低減 | ● 温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減） | 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策） |
| 化学肥料の使用量の低減 | 温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用） | 温室効果ガスの削減（省資源化） |
| 有機農業の取組面積拡大 | 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換） | 温室効果ガスの削減（その他） |

目指す姿

あわら・坂井地域の主食水稻栽培では、一般的に水稻の生育中期に作土への酸素供給や田面の地耐力向上を目的として中干しが行われている。この中干し期間を長くすることで水田からの温室効果ガス（メタン）排出を低減できるという知見得られていることから、一般的には10日程度の中干し期間をさらに10日間延長することで水田からのメタン排出を低減させ、農業分野での地球温暖化防止を推進することができる。

しかしながら、中干し期間を延長すると、気象条件によっては土壌の乾燥が進み過ぎて田面に亀裂が入ったり、過度な土壌乾燥により水稻の根を傷め、収量や品質に悪影響を与える恐れもある。

このため、中干し延長による水稻への影響を適切に把握しつつ、地球温暖化ガスの排出を削減できる栽培体系を確立し普及定着させる必要がある。さらに、水稻の中期生育を高めるために珪酸加里の施用が行われているが、これを投げ込み資材を用いることで省力化を促進する。

現在の栽培体系

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 |
|-------|----|------|----|---------|------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 主な作業名 | | 田除草 | 中干 | クイ酸加里散布 | 防除①② | 刈取製 | | | | | | | |
| 技術名 | | 側条施肥 | | | | | | | | | | | |

グリーンな栽培体系

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 |
|-------|----|------|-----------------------------------|----|------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 主な作業名 | | 田除草 | 中干延長 <small>（かり投げくん散布）</small> | | 防除①② | 刈取製 | | | | | | | |
| 技術名 | | 側条施肥 | 中干延長 <small>（投げ込み施用）</small> | | | | | | | | | | |

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

| | 現状R5 | 目標R10 | 備考 |
|----------------------|------|--------|----|
| （参考）対象品目の作付面積（ha） | 5884 | ▶ 5500 | |
| グリーンな栽培体系の取組面積（ha） | 5.4 | ▶ 200 | |
| 環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha） | 5.4 | ▶ 200 | |
| 省力化に資する技術の取組面積（ha） | 5.4 | ▶ 200 | |

取り入れる技術に応じて取組面積の目標等が異なる場合は、行を追加する等で分かるように記載してください。

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

| 分類 | 産地の慣行 | 新たに取り入れる技術 | 期待される効果 |
|----|--------------------------|---------------------------------|------------------------|
| 環境 | 土壌酸化と地耐力向上を目的とした中干し | ▶ 温室効果ガス（メタン）発生を抑制するための中干し期間の延長 | 温室効果ガス削減による地球温暖化防止への貢献 |
| 省力 | 水稻の中期生育向上を目的とした珪酸加里の機械散布 | ▶ 加里を中心とした投げ込み資材の利用 | 省力化による作業労働時間の短縮 |

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

| 分類 | 指標 | 現状 | 目指すべき水準 | 備考 |
|----|------------------|-----------|-------------|----|
| 環境 | 中干しの実施期間（日） | 10 | ▶ 20 | |
| 省力 | 加里資材の投入量（kg/10a） | 20 | ▶ 4 | |
| | | | ▶ | |
| | | | ▶ | |

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

農林総合事務所とJAが協力して農業者を対象とした研修会等で紹介するとともに、JAの営農指導資料に掲載し、農業者への普及推進を図る。

関係者の役割

| 関係者名 | 農林総合事務所 | JA福井県坂井営農経済センター | あわら市、坂井市 | |
|------|--------------|----------------------------|--------------|--|
| 役割 | 技術資料作成、技術の周知 | 研修会、営農指導資料での技術の周知、関係資材等の供給 | グリーンな栽培体系の推進 | |

その他